

「大牟田市庁舎本館の保存と活用をめざす会」(仮称) 設立総会

記念シンポジウムのご案内

大牟田のシンボル

大牟田市庁舎本館(国の登録有形文化財)

その新たな進路を考える

2019年1月27日(日)14時~16時30分、受付13時30分

大牟田文化会館 第1研修室及び第2研修室

会費：500円(資料代)



シンポジウム

シンポジウムでは会場からの質問にもお答えします。沢山の方の参加をお待ちします。



「本館建物の歴史的、文化的価値とその活用の可能性」

藤原 恵 洋 さん

1955年熊本県生まれ。九州大学工学部建築学科、東京藝術大学大学院修了、東京大学大学院博士課程修了、工学博士。九州大学大学院芸術工学研究院教授。専攻は日本近代建築史学・産業遺産学・芸術文化環境論・文化政策学。2011年~現在まで文化庁文化審議会世界文化遺産部会委員をつとめる。国際記念物遺跡会議(ICOMOS)会員、日本イコモス国内委員会委員。2014年~17年、文化庁長官表彰[芸術文化創造都市]部門審査委員会

委員・座長。愚直なまでに温故知新を生かし、史学とデザインを繋ぎながら創造的地域再生・社会イノベーションを創発してきた。建築探偵や路上観察を用いた文脈の掘り起こしは職人技とも言え、世間遺産から世界遺産まで専攻領域は広大無辺。

ご存知の方も多いと思いますが、歴史的遺産の保存と再生の課題で全国的に活躍されています。大牟田、荒尾でも世界遺産のまちづくりに関わっておられます。

「神奈川県庁本庁舎の歴史的、 文化的価値や公開の状況」

村 島 正 章 さん



一般社団法人神奈川県建築士会常任理事・技術支援委員会委員長(神奈川県邸園(歴史的建造物)保全活用推進員養成講座修了生)

大牟田市庁舎本館の設計でモデルとなった神奈川県庁本庁舎(国の登録有形文化財)の保存と活用で活躍された方ですが、個人の立場で、神奈川から参加されます。

「本館建物の建築構造について」

上 原 修 一 さん



久留米工業大学建築・設備工学科教授、有明高専名誉教授

専門：建築構造学、特に鉄筋コンクリート構造、博士(工学)、一級建築士

関係委員：佐賀県建築物

耐震性能判定委員会委員、福岡県建築物耐震性能判定委員会専門委員会委員

大牟田に住む建築構造の専門家です。本館建物の耐震補強については免震構造なども議論されてますので、一般の方にもわかるように建築構造の問題を話してもらいます。

主催：大牟田市庁舎本館の保存と活用をめざす会

連絡先：090-7469-0517(藤木雄二)、080-5273-4695(新谷肇一)

「大牟田市庁舎本館の保存と活用をめざす会」(仮称)

設立総会のご案内

下記の設立趣意書(案)に基づいて、「大牟田市庁舎本館の保存と活用をめざす会」(仮称)の設立総会を、下記の要領で開催します。どなたでも参加できます。多くの参加を期待します。

2019年 **1月27日(日)** **12時30分～13時20分**
受付12時



大牟田文化会館 第1研修室及び第2研修室

議事：経過報告、設立趣意書の承認、会則の承認、役員選出、事業計画案、予算案など



設立趣意書(案)

2019年1月27日

大牟田市庁舎本館は1936年(昭和11年)に旧庁舎(木造2階建)の火災・消失の後に、同じ場所に、福岡県営繕課の設計、株式会社柿原組の施工で竣工した鉄筋コンクリート造4階建ての建物で、その年の5月1日に落成式が行われた。今年で満83歳を迎えているが、今なお現役で使われている。

市庁舎の建設にあたっては、市庁舎建築委員会が組織され、51回の審議を経て、その間、先進都市の市庁舎の特徴を取り入れ、県営繕課の計画図案と建築専門技師(大手設計事務所)の計画案の両者を検討し、最終的に実施設計は福岡県営繕課に委託されたが、当時の市庁舎の最先端の設計であった。

建物は玄関部及び塔屋を中心に完全な左右対称で、本体部分の中央に塔屋を持つ当時の市庁舎の流行のスタイルであるが、水平線を強調した4階建ての本体の上に、4階の塔屋とその上に展望塔を載せて垂直線を強調したところがとてもバランスが良く、また、玄関入口底上の花をイメージした横3列の装飾とアールをとった各コーナーが柔らかさを表現した優れたデザインである。この本館の建物は、数少ない戦前の官公庁建築物としての歴史性、意匠性、更には屋上に残る機関銃台座や防空監視哨が市の歴史を如実に物語る戦争遺産である点も評価され、2005年(平成17年)12月に国の登録有形文化財に認定された。当時、流行した外壁のスクラッチタイルが剥落の危険から現在はモルタル仕上げに変わっているのが残念である。

大牟田市庁舎の耐震診断の結果が公表されたことを契機として、「大牟田市庁舎の整備手法」についての議論が始まり、大牟田市は市民アンケート、庁舎整備検討委員会の開催、市長との意見交換会を行い、ネット上でも庁舎整備検討委員会の摘録、シミュレーション結果報告書等の情報公開に努め、市議会でも議会報告会を開催し、市民の意見を聞く機会を作り、市民の関心も高まってきている。

2018年5月に発足した庁舎整備検討委員会は会議を重ねて、10月3日に大牟田市に対して答申が出され、本館整備については、「改修して庁舎として利用する」と「庁舎として利用しない」の意見が割れて一本化することができず、両論併記になったが、最後に要望で、登録有形文化財である本館は維持や庁舎以外の用途での活用の可能性も検討してもらいたいと求めている。市は答申を受けて、2018年度中に方針を決定するとしている。

大牟田市民に親しまれ、大牟田のまちのシンボルとして深く刻まれている市庁舎本館の建物としての価値、歴史的な価値、景観としての価値、人々の記憶に残る価値、後世に伝える価値等を共に考え、市民の財産として存続させ、活用する方策を考えるために、市民に広く呼びかけて、多くの共感者、支援者とのネットワークの構築をはかり、これからも市庁舎本館が多くの市民に親しまれる「憩いの場」、「学びの場」さらには「文化・歴史の伝承の場」となるような事業の展開を目的として、ここに「大牟田市庁舎本館の保存と活用をめざす会」(仮称)を設立致します。

以上

大牟田市庁舎本館 見学会のご案内

2019年1月28日(月)午前10時

本館前広場集合

正廳・防空監視哨(屋上)・議事堂などの見学

主催：「大牟田市庁舎本館の保存と活用をめざす会」設立準備会

連絡先：090-7469-0517(藤木雄二)、080-5273-4695(新谷肇一)